

H. 知的財産権の出願・登録状況

1.特許取得

なし

2.実用新案登録

なし

3.その他

なし

表1 認定講座(分類別)

- A: 資格取得には一定の能力が求められ、かつ受験を必要とするもの
 B: 資格取得には一般の生活者の取得も可能で、受験を必要とするもの
 C: 資格取得には一般の生活者の取得も可能で、通信講座受講だけのもの
 D: 資格団体が会員の研鑽を目的として行っているもの

分類	認定資格名	受講資格の記載		受講形態		受験資格		認定試験		更新制度	備考	
		国家資格取得者	有知識者	一般生活者	通信	講座	国家資格取得者	有知識者	一般生活者			在宅
A	1 栄養情報担当者	○	○		○	△	○	○		○		有知識者とは、国家資格以外の関連資格取得者または受験資格取得講座を受講し、資格試験に合格した者
A	2 サプリメントアドバイザー 〈臨床栄養協会〉	○	○		○	○	○	○		○		有知識者とは、国家資格以外の関連資格取得者 認定校学生
A	3 食品保健指導士	○	○		○	○	○	○	○	○		有知識者とは国家資格以外の関連資格取得者または関連業務への実務経験者
A	4 健康食品管理士	○	○		○	○	○	○		○		有知識者とは国家資格以外の関連資格取得者 認定校学生 大卒以上かつ資格審査に合格した者
B	5 サプリメント管理士マスター	○	○	○	○		○	○	○	○		有知識者とは国家資格以外の関連資格取得者 サプリメント管理士認定登録者
B	10 ヘルスケアアドバイザー			○	○			○		○		
B	11 健康食品コーディネーター			○	○	○		○		○		
C	5 サプリメント管理士			○	○		-	-	-	-		
C	7 サプリメントアドバイザー 〈日本ニュートリション協会〉			○	○		-	-	-	-		
C	12 食生活管理士			○	○		-	-	-	-		
C	13 サプリメントコーディネーター			○	○		-	-	-	-		
D	18 認定 サプリメントアドバイザー	○	○	○		○	○	○		○		有知識者とは国家資格以外の関連資格取得者

表2 認定講座概要

	認定目的等	受講資格	費用
		受験資格	更新制度
		講座概要	
1 栄養情報担当者	<p>◇「健康食品」等に関する正確な情報・知識を有し「NR」の名称を用いて、消費者に対して「健康食品」等に関する適切な情報を提供することを主な業務とする者を育成する。</p> <p>◇養成講座の実施主体は民間団体で、その支援をするという立場という方針のもとに制度を運用している。</p>	<p>なし</p> <p>1.有資格者(管理栄養士、栄養士、薬剤師、保健師、助産師、臨床検査技師、医師、歯科医師、獣医師)。</p> <p>2.学校教育法に定める大学又は旧専門学校令に基づく専門学校において、栄養学、薬学、保健学、医学、歯学、獣医学などの課程を修めて卒業した者。</p> <p>3.学校教育法に定める大学又は旧専門学校令に基づく専門学校において、食品衛生監視員の資格を得るために必要な科目を受講し、畜産学、水産学、農芸化学の課程を修めて卒業した者。</p> <p>4.食品衛生監視員の養成施設において、所定の課程を修了した者。</p> <p>5.日本国以外の国において、1に掲げるものと同等の資格を取得した者、又は2及び3に該当する学部を修了した者で研究所理事長が適当と認めた者。</p> <p>◇資格確認試験に合格した者</p> <p>◇NR指定養成講座を受講後、NR認定試験(試験1回/年)</p> <p>◇NR指定養成講座は一般向け12 栄養士会会員向け1 薬局・薬店勤務向け3 在学生向け(大学等)25あり(H22年1月現在) 一般・薬局向けは通信が主体。他は講座形式。</p> <p>◇資格確認試験 受験資格:研究所指定養成講座で22単位を取得し修了した者。試験科目:基礎栄養学、応用栄養学、人体の構造と機能・疾病の成り立ち</p> <p>試験方法:択一式の学科試験 受験料:15,000円</p> <p>◇「NR制度のあり方検討委員会」を内</p>	<p>NR指定養成講座は一般向けの場合60,000円前後 ◇NR認定試験 20,000円 申請手数料 5,000円</p> <p>3年12単位 ただし4単位以上は有効期限の末日前の1年間に取得する必要あり</p>
		<p>消費者に対して、サプリメントの安全性、有効性について科学的根拠に基づき説明ができる人材を育成すること。</p>	<p>1) 医師、管理栄養士、薬剤師、保健師や食品衛生・健康の維持増進・予防医学に関わりのある業務に従事方または保健機能食品等の製造・開発・販売に従事する方などすべての方。</p> <p>2) 日本サプリメントアドバイザー認定機構学校登録申請校在籍学生</p> <p>日本サプリメントアドバイザー認定機構企画の通信養育受講 日本臨床栄養協会学術大会(大連合大会)への参加</p> <p>認定試験は年1回(12月第一土曜日)合格すると、認定証・認定カード授与(有効期間5年) 更新のポイントは50単位</p> <p>受験科目 ①必須科目(サプリメント概論、食生活論、栄養学、生活習慣病概論(公衆衛生学、臨床薬理学、食品機能と安全性、国内外の関連法規) ②選択科目:指定国家資格および指定国家資格に準ずる方は選択科目を免除する。それ以外の資格の無い方または学校登録申請校の在籍生は上記必須科目に加え下記の3科目より2科目を選択(基礎の生化学、基礎の生理学、カウンセリング法)</p>
2 サプリメントアドバイザー 臨床栄養協会			

表2 認定講座概要

	認定目的等	受講資格	費用
		受験資格 講座概要	更新制度
3 食品保健指導士	<p><講習会目的> 保健機能食品等の普及啓発にあたり、消費者保護の観点から、健康の維持増進に役立つ健康補助食品の利用方法等についての確かな情報を提供し、専門的立場から相談を受け、指導できる方の育成が必要とされております。本講習会は、食品関連企業等に従事する方、医療関係者及び食品行政関係者等を対象として、食品保健に係る基本的諸法規をはじめ、食品の安全性、食品の機能有用性及び健康と栄養等について、広範な専門的知識を修得するための養成教育を行うことを目的とします。適格者には、食品保健指導士としての認定資格を授与します。</p> <p><食品保健指導士の役割> 消費者が、健康食品について正しく理解し有効に利用できるようにするために、相談に適切に応じられる専門家 健康の保持・増進のために、 ①消費者に対して健康食品や保健機能食品などについての正確な情報提供による知識の普及や正しい利用方法などに関する相談・指導を行う。 ②企業に対して関連法規の把握や遵守、必要表示事項の徹底などについて指導し消費者対応の適正化を図る。</p> <p><期待される業務> ・栄養学、食品保健科学の立場から、健康の保持・増進の目的に向けて、消費者に対し、食生活/食習慣の全般について具体的な指導あるいは情報提供を行う ・消費者がそれぞれの健康状態に見合った健康食品製品を正しく選択し、適切に使用する際の助言/指導/情報提供</p>	<p>1.医師、歯科医師、薬剤師、管理栄養士、栄養士、看護師、保健師、助産師、臨床検査技師等の有資格者及びこれらに相当すると認められる方。 2.学校教育法に基づく大学を卒業した方で、関連業務に3年以上従事した方。 3.学校教育法に基づく短大、専修学校、高等学校を卒業した方又はこれらの方と同等以上の学力があると認められる方で、関連業務に5年以上従事した方。 4.上記1～3の要件を満たさないが、(財)日本健康・栄養食品協会理事長が受講能力を有すると認められた方。</p>	<p>受講料： 77,000円(会員割引あり) 教材費： 15000円(会員割引あり) 修了評価認定試験料： 8,000円 資格認定登録料： 2,100円</p>
		講座受講者	5年間に10単位以上の取得 認定される単位：当協会や日本食品保健指導士会が主催する各種講習会(東京・大阪)への参加や、指定関連学会・研究会などへの参加の他に、日本食品保健指導士会会員としての定期的な情報収集や、食品保健指導士としての社会的活動
		講座形式のみ 4日間(28.5時間)	
4 健康食品管理士	<p><協会目的> 基礎医学(主として生化学・生理学)の教育が十分に行われている教育機関の学生とその卒業生に対し、栄養学や健康状態の診断に必須の臨床検査等に関する教育・健康食品等の安全性、効果、医薬品との相互作用及びその取り扱いに関する知識についての教育しそれらの総合知識を試験し、一定以上の能力がある者を健康食品管理士として認定証を与え、国民の健康に寄与することを目的としています。</p> <p><健康食品管理士の役割> 消費者の「安全性の保障」 認消費者に対し健康食品等を適正に利用することとその被害から守ることに指導的役割を担える人材</p> <p><期待される業務> 単に健康食品のこのことのみではなく、食と健康の問題からさらには、食の安全・安心を広くとらえることのできるリスクコミュニケーターとしての活躍。1. 健康食品の開発研究 2. 健康食品に関する治験の収集 3. 健康食品の販売 4)健康食品に関する各種コンサルタント 5. NSTメンバーとしてチーム医療への参画 6. 食の安全・安心に関するリスクコミュニケーターとしての活躍</p>	<p>(1)薬剤師(4年制)、臨床検査技師、管理栄養士、栄養士、保健師及び看護師の有資格者 (2)上記資格者以外で食品衛生監視員になれる者 (3)上記の資格養成校の学生(認定校以外) (4)以下のの該当者で協会資格審査より受講が認められた方 1.大学卒業者で、医師、獣医師、歯科医師、薬剤師、臨床検査技師、管理栄養士、栄養士、保健師、看護師の有資格者でない方または食品衛生監視員になる資格のない方 2.大学院修了者で、医師、獣医師、歯科医師、薬剤師、臨床検査技師、管理栄養士、栄養士、保健師、看護師の有資格者でない方または食品衛生監視員になる資格のない方</p>	<p>通信講座受講料 40,000円(講義DVD、課題レポートおよび予備試験費用含) 対面教育講座受講料 20,000円(学割あり) テキスト・問題解説集 セット 5,000円 認定試験料 15,000円 認定登録料 20,000円 年会費5,000円(内訳： 本部会費3,000円+支部会費2,000円)</p>

表2 認定講座概要

	認定目的等	受講資格	費用
		受験資格 講座概要	更新制度
4 健康食品管理士		<p>1. 認定協会が認めた認定校の学生</p> <p>2. 認定協会の条件を満たす既卒者が教育講座を受講し予備試験に合格した場合 教育講座の受講が免除される資格者 (1)医師、獣医師、歯科医師、薬剤師(6年制) (2)薬剤師、臨床検査技師、管理栄養士、栄養士、保健師及び看護師で修士以上の学位取得者 (3)大学院終了者で協会の資格審査により受験が認められた方</p> <p>通信講座 必要修得単位数:16単位(各科目2単位) 教材:テキスト、問題集、DVD、その他必要書類 単位の修得方法: ・自宅学習による課題レポートの提出後、審査による合格が必要 ・8科目16単位を修得後、予備試験への合格が必要。予備試験問題は配布。 期間:6ヶ月(標準)</p> <p>対面教育講座 2日間 1日目:8:50~17:50 2日目:8:50~15:50</p>	<p>1)管理士会へ入会。 2)資格の更新は、5年毎 3)資格を更新するためには5年間で50単位を取得 4)更新するためには以下のことが必要 1:必須条件 a) 毎年、更新試験を受験し合格する(1年で6単位) b) 認定協会又は管理士会が主催する研修会・講演会を受講すること(3回/5年。ただし、2006年度合格者から適用) 2:選択条件 a) 随時実施する特別試験を受験し合格(1回毎に4単位) b) 認定協会又は管理士会が主催する研修会・講演会を受講(1回毎に5単位) c) 指定する学会・学術研修会・講演会を受講(1回毎に5単位) d) 指定する学会・学術雑誌に発表(1回毎に8単位) ※上記 a)~d)のいずれか</p>
5 サプリメント管理士	<p>一般のサプリメント販売スタッフを対象として編集された通信教育講座。健康食品の販売・紹介にあたり、指導的な地位に携わることのできる知識水準を保持していることを認定する民間資格。</p>	<p>なし</p> <p>◇サプリメント管理士マスター: 1.「サプリメント管理士マスター養成講座」の受講修了者。「サプリメント管理士」認定登録者 2.医師・歯科医師・薬剤師・看護師(正・准)・管理栄養士・栄養士、その他、協会が適当と認めた者 ◇サプリメント管理士:試験なし</p> <p>◇サプリメント管理士マスター:テキスト7冊+日本人の食事摂取基準(市販)通信終了後、外部会場での筆記試験(選択式90分/100問)+在宅試験(記述(記述式・記入式/100問) 期間2年 ◇サプリメント管理士:通信のみ 期間1年</p>	<p>56,700円(一括45,900円)</p> <p>なし</p>
7 日本ニュートリション協会 サプリメントアドバイザー	<p>消費者が安心してサプリメントを選び、摂取することができる環境を整えるという願いから開講。個々の栄養素から関連する法令まで厚生労働省のガイドラインに沿った知識を習得し、社会が必要とする知識と情報を提供できるサプリメントのエキスパートの育成を目指す。</p>	<p>なし</p> <p>なし</p> <p>通信教育のみ 法人向け:テキスト2冊 個人向け:ビジネスコース基礎編3冊+添削問題集3冊 ビジネス編2冊+添削問題集1冊 期間1年 サプリメントアドバイザーコース テキスト3冊 通信+小論文 期間6カ月</p>	<p>法人向け:料金不明 個人向け: ビジネスコース89,000円 サプリメントアドバイザーコース: 40,000円 なし</p>

表2 認定講座概要

	認定目的等	受講資格	費用
		受験資格 講座概要	更新制度
10 ヘルスケアアドバイザー	病気や薬・栄養食事・運動などの正しい知識を習得し、健康維持・増進のために、地域に暮らす方々へ、病気の予防や改善のアドバイスができたり、セルフケアができる人を養成する。	日本チェーンドラッグストア協会会員（正会員、賛助会員、個人会員）及び一般生活者	受講料 ¥66,150（税込） 認定有効期間 3年間 協会認定・指定セミナー、レポート課題の提出によるポイントの取得
		通信教育修了者に限定して、認定試験を行う。 養成方法 通信教育(12ヶ月) DVD学習 教材内容:テキスト12冊分、別冊(約1,600ページ)DVD1巻添削もんだい12回 ヘルス&ビューティ人材育成センター認定 通信教育修了者に限定して認定試験を行う。合格基準を満たした人には認定証を交付。	
11 健康食品コーディネーター	失業対策として個人の自立・自活による国内経済の回復を図るために設立した認可団体 そのため、職業技能の養成を図り、新しい雇用創設及び再就職を支援する事が団体の主たる目的 <認定目的> ここ数十年で、健康食品市場は急速に発展し、今後も高齢化・医療費負担増・セルフメディケーションの時代を迎えさらに大きな市場になることが予想されます。一方で、その取り扱い基準が必ずしも明確になっていない現状です。この健康食品を取り扱う側と利用する側がそれぞれ実践的な正しい知識を身につけることにより、人々の健康増進などに寄与できる能力を有しているか判定する認定試験	なし	団体主催通信講座: 28,000円 NPO法人日本健康食品科学アカデミー主催 通信講座 ・受講料:5,000円(税込) ・受講料+公式テキスト代+送料:9,325円(税込) 講義形式 ・受講料:13,800円(テキスト代含む) 受験料:10,000円 公式テキスト代:3,800円
		なし 団体主催:通信講座 【教材構成】 公式テキスト1冊 ワークブック4冊 第1巻 健康食品市場の現状と将来 第2巻 栄養学と健康食品素材 第3巻 生活習慣病と免疫 第4巻 健康食品について 実力確認問題 6回 【標準学習期間】 3~6か月 NPO法人日本健康食品科学アカデミー主催: 通信講座・認定試験のポイント、模擬試験と解答解説を郵送 講義形式 1日(4時間45分)	
12 食生活管理士	様々な角度から「食生活」のあり方を見直し、学び、個人や家族の健康維持・増進についての的確なアドバイスが行えるように実践的な食の知識を身につける。	なし	29,800円 修了証発行別途3,150円 なし
		なし テキスト5冊+食事日記+食品交換表(市販品)+添削問題 通信 期間6カ月	
13 サプリメントネーター	サプリメント販売に携わる人や一般の人に対して、サプリメントに関する正しい知識を広く身につけ、サプリメントを活用しながら健康へのアプローチを行い、自然治癒力を高める手助けを習得する。	なし	28,700円 修了証発行別途3,150円 なし
		なし 通信 初級コース:テキスト3冊 期間4カ月	

表2 認定講座概要

	認定目的等	受講資格	費用
		受験資格	更新制度
		講座概要	
18 認定 アドバイザー ザリメント	医療従事者においても患者さんにサプリメントの知識の適切なアドバイスができること。	<p>歯科医師 歯科衛生士 歯科スタッフ 日本アンチエイジング歯科学会 一般</p> <p>4回の講習を受講 一般は受けられない(会員のみ)</p> <p>認定試験は年1回(過去5回秋に)4日間の講習をうけ4日目に試験。 対象者: ドクター、歯科スタッフ、学会員試験は会員で無いと受けられない。 受講は一般でも良い。(料金別)</p>	<p>受講料4万円 試験料:3万円 不合格の場合2万円返却</p> <p>入会金2万5千円 年会費6千円 一般は受講のみ4万5千円</p> <p>有効期間5年 12単位の取得 講習会(学術セミナー・アロマの講習会等)1回 2単位</p>

表3 テキスト比較一覧

大項目	小項目	1栄養情報 担当者(NR)	2サブプリメント ハイザー(臨床)	3食品保健 指導士	3食品保健 指導士(新)	4健康食品 管理士	5サブプリメント 管理士	7サブプリメント ハイザー(ニュー)	10ヘルスケア アドバイザー	11健康食品 アドバイザー	12食生活 管理士	13サブプリメント アドバイザー	18認定サブプリメント アドバイザー
		頁数	頁数	頁数	頁数	頁数	頁数	頁数	頁数	頁数	頁数	頁数	頁数
食生活	食生活の変遷	3.4		2	3.7	0.5	3			0	10	10.5	
	1 食事摂取基準	11	8.5	7	9.2	6	6	1.3	1.5	0.8	5	11	3
	7 ライフステージ別栄養学			0	14.4	0		3	6	0	12	6.5	
	9 セルフメディケーション			2		0			10.8	2.8			
	9 食育		5.2	1.1	8.5	3	10	1		2.5	26.5	4	23
	食生活その他		0.8	0		0				5.3			
	7 体のしくみ		35.4	31.9		43			56	1	1.4	8.8	13
	7 エネルギー			1	5	3			1	3.2	4.7	1	
	7 3大栄養素	11	8	0.2	4.5	4.5	50		2.7	21	9.8	5.5	4
	7 ビタミン・ミネラル	27	7	0	3.4	43	118.8		19	42	6.3	18	3
栄養学の基礎	7 食物繊維	2	0.7	0	1.6	2	30.7		3.5	1.1	3	1	
	7 免疫		2.5	9.3	3.7	7				9			
	栄養学その他	14		0		1	11	1.6	4	3	2.5	7.8	
	10 健康食品の現状と将来	25.8	4.7	10.5	1.2	7	1	6.3	4.5	20		14.5	
	7 健康の概念		7.3	2.6	11	4	5			1	1	1.5	1
	8 定義・分類	4.2	14.1	2.1	2.3	5	1	4.5			0	3.5	2
	保健機能食品	27.5	23.6	22.5	12	47.2	15	1.8	9.5	2	2.4	6.5	6.6
	栄養素		0.2	22	4.5	5	11.5	12.9	8.5	1		3.5	
	ハーブ	2	0.5	4	3	7	69.4			0		17.5	
	その他の健康食品	1.7		6	8.6	40	70			12		14.1	
健康食品	1 摂取について			0.5		0		1.5		0	1.5	3.7	2.3
	3 相互作用	12.5	7.6	16	6.3	9.6	6.6	0.5		0		1.5	5
	9 健康被害	4		24.3	0.6	8.5	1.8			0.5		3.3	
	10 海外事情	9.2	2.8	18.5	3	0	3	1.7		1.5		6	
	健康食品その他	6	5	0	4.6	32		3.6		0			0.5
	2 概要	2.2	5.3	0		2			156	0			2
	2 薬理学	3	14.8	0.5	5.5	3			19	0			3
	医薬品その他	5.9		0		14.4		0.5	122	0			0.5

表3 テキスト比較一覧

大項目	小項目	1栄養情報担当者(NR)	2サブプリメントハイザー(臨床)	3食品保健指導士	3食品保健指導士(新)	4健康食品管理士	5サブプリメント管理士	7サブプリメントハイザー(ニュー)	10ヘルスケアアドバイザー	11健康食品アドバイザー	12食生活管理士	13サブプリメントアドバイザー	18認定サブプリメントアドバイザー
		頁数	頁数	頁数	頁数	頁数	頁数	頁数	頁数	頁数	頁数	頁数	頁数
疾病	7栄養管理・栄養フェーズメント	14.2	7.8	35.3	19.3	3.3			5	0			7.6
	7生活習慣病	29.1	29.3	39.5	14.7	59.1	14		66.5	26	41	24.2	1
	7アレルギー			8	2.1	1.5	1			3	3		2
	7体の不調			0		8.5	2			0	2	50.3	
法令・法規	疾病その他			4	7.6	61			307.6	5.5	4		
	8健康増進法	2.2	1.5	10	8.5	1.5	1	0.5	0.2	1		1	0.3
	8食品衛生法	4	1	21.3	5.75	5	3	0.6		1	1		0.2
	8薬事法	4	4.3	27	4.5	3.5	20	0.8	8	1.3			2
	8食品安全基本法	3	0.8	1	3.25	1.5	2	0.7		1	1		0.2
	8JAS法	1.2	0.8	8	2.7	2.5	1	0.5		0	1		0.6
	8PL法	0.4		7.3		1	1.5	0.3		1.5			
	8消費者基本法	0.2		8	3.6	0	2.5			0.3			
	法令・法規その他		0.5	4		4.5	23.5	3.3	14.5	4.6	2.8		0.7
	食品衛生	6食品衛生	7		44.8	4	4	6			1	11.9	
6食品添加物		10	1.2	1.5	1.9	9	13			0	1	2	0.4
食品衛生その他		2.3	2.7	0		2	6			0	4.5		
試験			3.7	15.3	3	0				0			
商品開発	申請	3.5	3.3	2	2.5	8				0			
	商品開発その他		4	1.5		0				6			
	6GMP	0.1	0.2	23.6	6.7	10	0.4			4.5			0.2
	6HACCP	2	1	23	0.1	0.5	3.8			0.5	0.1		0.3
品質・製造管理	6リスクアナリシス	22.6	15	3.5	19.5	1.5	4			0.5			
	品質・製造管理その他	1	1.5	46.4	21.7	0				13.5		9.7	0.8
	8品質に関わる表示	8.4		2.5	1.1	6		1.5		0.5	2.5	6.2	0.8
	4栄養・健康に関わる表示	12	1.4	22.5	7	6			2	1.1	2.5	4	0.2
表示	10コーデックス	2.4	0.5	5.5	12.8	0.5	4	0.8		0.5			
	表示その他			0	6	0.5		1.5		0			0.2

表3 テキスト比較一覧

大項目	小項目	1栄養情報担当者(NR) 頁数	2サプリメントアドバイザー(臨床) 頁数	3食品保健指導士 頁数	3食品保健指導士(新) 頁数	4健康食品管理士 頁数	5サプリメント管理士 頁数	7サプリメントアドバイザー(ニュー) 頁数	10ヘルスケアアドバイザー 頁数	11健康食品アドバイザー 頁数	12食生活管理士 頁数	13サプリメントコーディネーター 頁数	18認定サプリメントアドバイザー 頁数
消費者対応	9 カウンセリング	3.5	33.9	0	0.7	0	3.7			0			2
	9 フードファディズム			3.5		0.5	2			0	1.5		
EBM	消費者対応その他	8.5	2.7	6.8	4.5	0	1	34.2	149.7	0.3	29.5	10.2	4
	5 科学的根拠	12.5	6		10.7								
その他			0.2	0	3.5	0	6		389.5		99.2	2.8	
その他特徴 (80文字まで)		科学的根拠について、研究方法や論文検索等が詳しく書かれている。	厚労省のガイドラインに従ってテキストを作ったことが、最初からあった。消費者対応のカウンセリングが充実している。トクホに関する詳しい内容。	テキストは講義用のスライドを含む。各講席ごとにテキストがある。一部内容の重なりあり	健康食品の品質・製造・管理、安全性 第3者認証等が具体的に記載されている。	一部内容の重複あり。単元ごとに課題として設問と回答がある。参考文献や索引がある。	テキストは上余白が多く、ページ数だけでは評価しづらい面がある。ピタリ・ミネラル・ハーブについて細かく記載されている。	消費者へのQ&Aで具体的な指針を記載している。	「応対基本技術」のDVD付きその他の内訳代替医療(22)妊娠・出産(50)介護(42)応急処置(81)店舗に関するすべての業務(別冊付)健康食品の記載はほとんどない	法律・制度については概略のみ記載	食事、献立作成、運動、生活と多岐にわたる。食物関係145p 調理関係13p 食品交換表11p 食品成分表3p 運動30.1p 睡眠3.5p ストレス3p エコロジ―2.5p 他	No.12と同会社が運営。一般向けの優しい基本的な内容になっている。	歯科医師、歯科スタッフの認定資格。広く浅くバランスのとれた内容。患者とのコミュニケーションを大切に適切な栄養のアドバイスができることが目標

表4 No.1 栄養情報担当者(NR) 独立行政法人国立健康・栄養研究所

NR指定養成講座終了後、認定試験

テキスト	大目次	小目次	頁数	カテゴリ	キーワード	執筆・監修者
栄養・食品学特論	栄養・食品学特論	食品成分(栄養素・非栄養素成分等)の機能性・有効性	54	3大栄養素 ビタミン・ミネラル 食物繊維 栄養学 その他	a. たんぱく質、ペプチド、アミノ酸 b. 脂質、脂肪酸(飽和脂肪酸、不飽和脂肪酸、共役ノール酸等)、糖脂質(ジアシルグリセロール) c. 炭水化物の生理的な機能と有用性 d. ビタミン e. 無機質 f. 食物繊維、オリゴ糖 g. 食物性化学物質(ファイトケミカル) h. 食品の成分変化と栄養	hg fedcba 村大山鈴木合永山田澤木木田本容俊和一敏純常 彦 春 夫 向 一 茂
		食事摂取基準の概念と利用法	11	食事摂取基準	概論 EAR RDA AI DG UL 活用法 各論(各栄養素について)	森田明美
		食品の規格	3.2	JAS法	目的 食品規格制度 規格の具体例 特定JAS 有機農産物 生産情報	
		食料生産と栄養	1.8	食生活の変遷	世界の食糧生産と栄養 日本の食料生産と栄養	
		食品加工と栄養	1.6	食生活の変遷	可食か(栄養性の向上) 貯蔵性の向上 嗜好性の向上と多様化 利便性の付与 食品加工の原理	村田容常
		食品流通・保存と栄養	1.3	食品衛生その他	食品の劣化原因 各種食品保存法	
		包装	1	品質・製造管理その他	包装材料とその特徴	
		診察の基本手段と検査の基本	7.5	栄養管理・栄養アセスメント	体格の評価 肥満の質的評価 皮下脂肪厚計測法 筋タンパク質の指標 体脂肪量 栄養評価のための臨床検査の血液、尿の各項目について	武田仁
		食事・栄養療法	6.7	栄養管理・栄養アセスメント	食事療法 栄養補給療法 経腸栄養 末梢静脈栄養 中心静脈栄養	新宮平三
		食品成分と医薬品の相互作用	18	概要 薬理学 相互作用	医薬品の効果が食品成分により変化する機序 食品成分が医薬品の体内動態を変化させる相互作用 医薬品の感受性の変化または薬理学的相加作用を機序とする食品の相互作用 不純物の混入による健康食品の健康被害	越前宏俊
健康食品	健康食品	医薬品開発の流れ	2	GMP 医薬品その他	医薬用医薬品 新薬研究開発・承認の流れ 一般用医薬品	合田幸弘
		生薬・漢方薬	4	医薬品その他	歴史 概要 証の概念 日本薬局方 規格 漢方GMP 生薬の基原と植物名 生薬と薬品	
		健康食品の評価	8.5	健康食品の現状と将来 定義・分類 健康被害	a. 健康食品の種類と内容 b. 有効性評価 c. 安全性評価 d. 利用に対する考え方 e. 特定保健用食品の市販後調査	
		いわゆる健康食品(ダイエット効果を謳った食品を含む)	18.5	健康食品の現状と将来 定義・分類 ハーブ 健康被害 栄養・健康に関する表示	いわゆる健康食品 機能性食品 ダイエット・サプリメント 有効性と安全性の科学的根拠とその情報源 ハーブ ダイエット食品 問題点と対策 健全な利用に向けて	志村二三夫
		栄養補助食品(サプリメントとしてのビタミン類、ミネラル類など)	2.7	定義・分類	成分としてのサプリメントと医薬品の違い 品質としてのサプリメントと医薬品の違い	梅垣敬三
		特別用途食品	6	健康食品その他	概念と種類 病者用食品 妊産婦・授乳婦用 乳児用 高齢者用 特定保健	萩原清和
		特定保健用食品	8.5	保健機能食品	概念 種類 利用法	梅垣敬三
		栄養機能食品	10	保健機能食品	概念 基準 摂取の留意点 現状の問題点	齋藤衛郎
		健康補助食品	1.7	その他の健康食品	名称及び法的位置づけ 形状、成分及び品質保全 表示	大濱宏文
		遺伝子組換え食品	7	遺伝子組換え食品	現状 遺伝子組換えの方法 安全性評価 組換え植物 理解するために	橋田和美

表4 No.1 栄養情報担当者(NR) 独立行政法人国立健康・栄養研究所

テキスト	大目次	小目次	頁数	カテゴリー	キーワード	執筆・監修者
		市場と海外の動向	8.6	健康食品の現状と将来 海外事情 コーデックス	特別用途食品 特別保健用食品 栄養機能食品及びその他のいわゆる健康食品 あるいは健康(栄養)補助食品 海外の健康・栄養食品の動向	大濱宏文
	食品の表示	栄養強調表示	5.8	栄養・健康に関する表示 コーデックス	日本の制度 海外の基準と整合性 今後の展望	清水俊雄
		健康強調表示	6.5	栄養・健康に関する表示 海外事情	栄養素機能表示 健康強調表示 健康・栄養強調表示の制度化 おわりに	
		その他の食品表示	9	品質に関する表示 栄養・健康に関する表示 JAS法	a. 期限表示 b. アレルギ表示 c. 食品添加物の表示 d. JAS法による品質表示基準制度 e. その他	a.c.d.e.豊田正武 b.堀口逸子
	食品の安全性と衛生管理	食品安全のリスクアナリシス	18	リスクアナリシス	食品安全のリスクアナリシスと健康リスク評価 リスク管理 リスクコミュニケーション 食品安全に関する国際的取り組みと有用な情報源	関澤純
		健康食品のリスクコミュニケーション	4.6	リスクアナリシス	概要 健康商品安全情報ネット 健康食品のリスクコミュニケーションについての最近の動向	
	栄養・食生活、健康食品と生活習慣病	食品衛生管理と品質管理	6	食品衛生 HACCP 食品衛生その他	衛生管理と品質管理 実践 HACCP 品質マネジメント ISO	梅垣敏三 岩田修三
		食品添加物	10	食品添加物	保健機能食品と食品添加物 定義 分類 1日摂取許容量の決め方 表示 具体例	米谷民雄
		高血圧	6.4	生活習慣病	a. ナトリウム、カリウム、ペプチドと高血圧の関係 b. 高血圧と生活習慣病	a.伊達ちぐさ b.油井龍五
		脂質異常症	3.3	生活習慣病	脂質異常症とは 代謝 特定保健用食品の利用	松本明世
		肥満	4.4	生活習慣病 保健機能食品	定義 メタボ診断基準 ジアシルグリセロール 茶カテキン	江崎治
		糖尿病	4.8	生活習慣病 保健機能食品	診断基準 血糖値と特定保健用食品	
		循環器疾患	4	生活習慣病	先天性心疾患 後天的心疾患 感染症心内膜炎 不整脈 心筋症 心不全 虚血性心疾患・急性冠症候群	近藤和雄
		脳卒中	2.5	生活習慣病	定義 脳卒中の動向 危険因子 予防対策 健康食品の利用	横山徹爾
		主要部位のがん	5.7	生活習慣病	口腔・咽頭癌・食道癌・咽頭癌 胃癌 大腸癌 肝癌 肺癌 膵癌 乳癌 食生活の危険因子	山口直人
		骨粗鬆症	4.3	生活習慣病 保健機能食品	分類 症状 骨代謝と栄養 骨粗鬆と特定保健用食品 健康食品	石見佳子
	栄養教育特論	う蝕・歯周病	1.3	生活習慣病	発生病序 予防 歯周病 原因と予防 栄養との関係	
		行動科学	3	消費者対応その他	行動科学と行動療法 行動科学における問題解決の方法 栄養教育に用いられる行動技法 栄養教育と行動科学	丸山 千寿子
		栄養教育の形態	3.5	消費者対応その他	栄養教育の内容 形態 授業形式 グループ学習の授業方法	
	科学的根拠に基づく栄養実践活動	コミュニケーションの技術	3.5	カウンセリング	コミュニケーションとは コミュニケーションのための技術	
		動物実験、in vitro実験(試験管内実験)による研究	1.5	科学的根拠	in vitro実験 動物実験 安全性試験 有効性試験 種類と内容	石見佳子
		人を対象とした研究	1.2	科学的根拠	介入研究 観察研究の種類と内容	

表4 No.1 栄養情報担当者(NR) 独立行政法人国立健康・栄養研究所

テキスト	大目次	小目次	頁数	カテゴリ	キーワード	執筆・監修者
	科学的根拠のタイプ	科学的根拠のタイプ	4	科学的根拠	研究デザイン 介入研究と観察研究 研究デザインの序列 総説論文	坪野吉孝
	情報の探索方法	情報の探索方法	5.8	科学的根拠	医学文献の検索 英文医学専門誌、日本の公的ウェブサイト 情報の信頼性、評価	
	NRの倫理	NRの果たすべき役割と業務のあり方	1	消費者対応その他	NRの役割	清水俊雄
	関連法規	企業の使命と社会的使命	1	消費者対応その他	企業の社会的使命	
		食品安全基本法	3	食品安全基本法	基本理念 関係者の責務・役割 基本方針 食品安全委員会	井上浩一
		食品衛生法	4	食品衛生法	製造・販売・広告等の主な規定内容	
		健康増進法	2.2	健康増進法	特別用途表示、栄養表示基準及び健康の保持増進効果等についての虚偽・誇大広告等の表示の禁止についての規定内容	
		薬事法	3	薬事法	食品と関わりの深い規定内容	
		保健機能食品に係る関係法規及び通知	3	薬事法 法令・法規その他	保健機能食品の法令上の位置づけ	
		食品に係る表示・広告規制の現状とその取扱い	2.6	品質に関わる表示	食品衛生法、JAS法、景品表示法による表示規制	
		化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律	1.4	法令・法規その他	化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律の主な規定	
		消費者政策に関する主な法律	3.8	PL法 消費者基本法 法令・法規その他	消費者基本法 不当景品類及び不当表示防止法 特定商品取引に関する法律 消費者契約法 製造物責任法	
		特定保健用食品の概要と申請から許可までの流れ	6	健康食品の現状と将来申請	特定保健用食品の概要 許可の概要 許可から申請 審査 臨床試験	
	参考資料	海外における関連法規 保健機能食品に係るアドバイザリースタッフの養成に関する基本的考え方について	5	海外事情 コーデックス	健康機能表示の背景 海外の制度 コーデックス	
		栄養情報担当者(NR)認定制度			厚生労働省「保健機能食品に係るアドバイザリースタッフの養成に関する基本的考え方について」	清水俊雄

表4 No. 2 日本臨床栄養協会サプリメントアドバイザー認定機構

テキスト	大目次	小目次	頁数	カテゴリー	キーワード	執筆・監修者
サプリメントアドバイザー (第3版)	サプリメント概論	サプリメントの定義と歴史	4	定義・分類	サプリメントの歴史, Dietary supplement Health and Education Act(1994年 米国)、「専ら医薬品として使用される成分本質(原材料リスト)」の考え方、薬事法・食薬区分について、日本におけるサプリメントの位置づけ(2001年)、新しい特定機能食品制度の考え方と表示の範囲(2005年)	橋 祐直 孝・ 内田 菜穂 子
		サプリメントの使用目的と分類	2.3	定義・分類	バランスサプリメント リスクリダクションサプリメント	
		サプリメントアドバイザー制度	5	健康食品その他	アドバイザースタッフの養成に関する基本的な考え方 (必要性、習得すべき知識、養成方法、) 日本臨床栄養協会サプリメントアドバイザー制度について(目的と役割、記述式試験制度、アドバイザーの倫理)	
		健康について	3.5	定義・分類	健康の定義 ライフサイクルにおける健康の課題(乳児期、学童期、思春期、成人期、高齢期、妊娠・授乳期、スポーツ栄養)	
		日常生活と健康	8.5	食事摂取基準	健康的な食生活(栄養素等の働きと食事摂取基準)「国民健康・栄養調査」から見るわが国の食生活の現況(栄養摂取の現状) 食事摂取基準の利用方法 エネルギーおよび各栄養素の食事摂取基準	
栄養学一健康から疾病まで	現代の栄養の諸問題:生活習慣病の背景	バランスガイドの活用	5.2	食育	食事バランスガイドとは 食事バランスガイドの食事への活用	松 崎 政 三
		メタボリックシンドロームへの対応	1.6	生活習慣病	内臓脂肪症候群(メタボリックシンドローム)に着目する意義 特定検診・特定保健指導の特徴	
		現代の栄養の諸問題:生活習慣病の背景	1	生活習慣病	生活習慣要因が生活習慣病の発症に関わっている	
		人間栄養学概論	5	健康の概念 栄養管理・栄養アセスメント	健康栄養状態とは(栄養成分の摂取と体組織、健康と疾病) 栄養ケア・マネジメント	
		糖質・脂質代謝の調節とインスリンの作用	6.6	栄養管理・栄養アセスメント	インスリン抵抗性 インスリンと肥満 内臓脂肪型の特徴 動脈硬化とコレステロール	
		日本人のエネルギー代謝の特徴	1.8	エネルギー	日本人のエネルギー代謝の特徴	
		食事摂取のタイミングと食品の選択	2.5	体のしくみ エネルギー	食事のリズムと代謝 グリセミックインデックスの活用 摂取する脂質の量と質	
		潜在性の栄養素欠乏とその対策	3.5	体のしくみ	骨粗鬆症の一次予防 鉄欠乏性貧血の一次予防 葉酸欠乏とその対策	
		健康長寿への道	1.5	健康の概念	7つの健康習慣	
		生活習慣病とは	0.3	生活習慣病	生活習慣病とは	
生活習慣病概論	日本人の疾病	日本人の疾病	1.8	生活習慣病	寿命と人口構成の変化 食生活や生活環境の変化 疾病構造の変化(罹病率・罹患率の変遷)	合 田 敏 尚
		疾病における遺伝要因と環境要因	0.5	生活習慣病	生活習慣病の疾患は多因子遺伝疾患	
		肥満(定義と診断基準、病態、治療) メタボリックシンドローム(概念、診断基準) 脂質異常症(高脂血症)(定義と診断基準、病態、治療) 高血圧(定義、病態、治療) 糖尿病(罹患率の増加とその背景、定義、診断基準、分類、治療の目的と目標、治療法、糖尿病合併症、) 通風・高尿酸血症 脂肪肝 骨粗鬆症 睡眠時無呼吸症候群(SAS) 慢性閉塞性呼吸器疾患(COPD) 慢性肝臓病(CKD) 虚血性心疾患と脳血管障害 がん アルツハイマー病	20	生活習慣病	生活習慣病の疾患は多因子遺伝疾患	
		生活習慣病各論	1.5	生活習慣病	運動の効果 生活習慣病の予防と治療における運動療法 運動と食生活、サプリメント	
		身体活動・運動と生活習慣病	1.5	生活習慣病	運動の効果 生活習慣病の予防と治療における運動療法 運動と食生活、サプリメント	
		たばことアルコール	1.3	生活習慣病	たばこの害 たばこの病態 禁煙治療 アルコール	
		その他の生活習慣病と疾患	1.3	生活習慣病	生活時間と睡眠 ストレス 紫外線 口腔ケア	
		生活習慣病とは	0.3	生活習慣病	生活習慣病とは	
		日本人の疾病	1.8	生活習慣病	日本人の疾病	
		疾病における遺伝要因と環境要因	0.5	生活習慣病	生活習慣病の疾患は多因子遺伝疾患	
生活習慣病概論	日本人の疾病	日本人の疾病	1.8	生活習慣病	寿命と人口構成の変化 食生活や生活環境の変化 疾病構造の変化(罹病率・罹患率の変遷)	臨 昌 子
		疾病における遺伝要因と環境要因	0.5	生活習慣病	生活習慣病の疾患は多因子遺伝疾患	
		肥満(定義と診断基準、病態、治療) メタボリックシンドローム(概念、診断基準) 脂質異常症(高脂血症)(定義と診断基準、病態、治療) 高血圧(定義、病態、治療) 糖尿病(罹患率の増加とその背景、定義、診断基準、分類、治療の目的と目標、治療法、糖尿病合併症、) 通風・高尿酸血症 脂肪肝 骨粗鬆症 睡眠時無呼吸症候群(SAS) 慢性閉塞性呼吸器疾患(COPD) 慢性肝臓病(CKD) 虚血性心疾患と脳血管障害 がん アルツハイマー病	20	生活習慣病	生活習慣病の疾患は多因子遺伝疾患	
		生活習慣病各論	1.5	生活習慣病	運動の効果 生活習慣病の予防と治療における運動療法 運動と食生活、サプリメント	
		身体活動・運動と生活習慣病	1.5	生活習慣病	運動の効果 生活習慣病の予防と治療における運動療法 運動と食生活、サプリメント	
		たばことアルコール	1.3	生活習慣病	たばこの害 たばこの病態 禁煙治療 アルコール	
		その他の生活習慣病と疾患	1.3	生活習慣病	生活時間と睡眠 ストレス 紫外線 口腔ケア	
		生活習慣病とは	0.3	生活習慣病	生活習慣病とは	
		日本人の疾病	1.8	生活習慣病	日本人の疾病	
		疾病における遺伝要因と環境要因	0.5	生活習慣病	生活習慣病の疾患は多因子遺伝疾患	

表4 No. 2 日本臨床栄養協会サプリメントアドバイザー認定機構

テキスト	大目次	小目次	頁数	カテゴリー	キーワード	執筆・監修者
	公衆衛生学—サプリメントの安全・安心な利用に向けて	はじめに	6.5	定義・分類 健康の概念 消費者対応その他	公衆衛生の定義と公衆衛生活動の特徴 健康の維持・増進に関わる考え方の変遷 プライマリ—ヘルスケア ヘルスプロモーション 目標指向型健康増進施策(日本の例) 健康教育 消費者の自立の支援	志村二三夫
	食品の有用性、安全性の科学的根拠		12.5	定義・分類 試験 健康食品の現状と将来 消費者対応その他	疫学の定義とわらい 疫学史に残る業績 症例対照研究(後向き研究) コホート研究(前向き研究) 無作為化比較試験 相対危険度とオッズ比 システムレビューとメタアナリシス ヒトを対象とした臨床試験の実施基準 科学的根拠に基づく医療・情報提供(サプリメントアドバイザーが消費者に提供する情報の選択基準、研究デザインと科学的根拠の質、保健機能食品の有効性・安全性の科学的根拠、いわゆる健康食品の有効性・安全性の科学的根拠、The Cochrane Systematic Review 情報の探索方法(インターネット、図書)	
	食品や食品添加物の安全性確保		15	リスクアナリシス 品質・製造管理その他 HACCP 薬事法	食品安全とリスク分析(食品安全から見たハザードとリスク、化学物質の安全確保とリスク分析の重要性、食品安全のためのリスク分析の要素、リスク評価、リスク管理、リスクコミュニケーション、リスクコミュニケーションにおけるサプリメントアドバイザーのあり方) 食品の品質管理とその方法(医薬品の開発・製造に関する基準、医薬品GLP、食品GMP、ISO9000規格) HACCPシステム 医薬品の範囲に関する基準(食薬区分)(医薬品の判断基準)	
	特定保健用食品の有効性・安全性の科学的根拠		6	保健機能食品 申請 栄養・健康に関わる表示	特定保健用食品の区分 特定保健用食品の表示の範囲 特定保健用食品の許可の要件 特定保健用食品の申請から許可までの流れ 特定保健用食品の審査申請における留意事項	
	特定保健食品のさらなる向上のために		7.2	商品開発その他 試験	医薬品開発の流れ 特定保健用食品の流れ ヒトを対象とした試験の基準 無作為化比較試験の医学論文に求められる事項から学ぶ	
	おわりに		0.2	消費者対応その他	サプリメントアドバイザーは広い分野、細部にわたる知識を身につける(消費者対応のため)	
	はじめに		0.5	薬理学	臨床薬理学の目的	
	薬の条件		5.3	概要	薬の条件(薬の使命(薬物療法) 薬の形(剤形) 薬の法的分類 新薬の開発 薬の情報	
	薬の運命		3.6	薬理学	体内での薬の動き(薬物動態) 整体利用率 血漿タンパク質 生物学的半減期 薬物代謝酵素	
	薬の作用		5.7	薬理学	薬の作用部位と作用 受容体と薬 イオンチャネルと薬 酵素と薬 その他の作用部位	
	薬の効力		5	薬理学	薬用量 過量の原因:過量に至る様々な要因 投与経路と効き方 加齢 その他の因子	
	相互作用		7.6	相互作用	医薬品相互作用の起こり方(吸収過程における医薬品相互作用、代謝過程における医薬品相互作用、分布過程における医薬品相互作用作用部位における医薬品相互作用) 吸収過程での食品・医薬品の相互作用 代謝過程での食品・医薬品の相互作用 作用過程での食品・医薬品の相互作用 医薬品添付文書に記載されている食品・サプリメント	
	臨床薬理学—食品との相互作用・医薬品との差異を含む—					篠塚和正

表4 No. 2 日本臨床栄養協会サプリメントアドバイザー認定機構

テキスト	大目次	小目次	頁数	カテゴリ	キーワード	執筆・監修者
食品機能と安全性・食品成分消化・吸収・代謝、有効性と安全性に関する知識	おわりに(健康の維持・回復のために)	健康の概念	0.8	健康の概念	バランスのとれた生活を基本とし、臨床薬理学の知識を応用し健康維持や回復の為に合理的なサプリメントの利用を目指す	海老沢 秀道 飯野 久和
		食品成分の消化・吸収および主な役割	1.5	体のしくみ	栄養素の吸収	
		食品成分の有効性	20.5	健康の概念 保健機能食品	食品の機能、食品の種類と機能 保健機能食品の種類と機能 栄養機能食品と特定保健機能食品、栄養機能食品の機能(栄養機能食品の機能を示す科学的根拠、栄養機能食品の機能) 特定保健機能食品の機能(特定保健機能食品の機能を示す科学的根拠、特定保健機能食品の機能の科学的根拠を示すための試験系、特定保健機能食品の機能)	
		食品成分の安全性の評価	5	リスクアナリシス	ハザードとリスク リスク分析 リスク評価(毒性試験、催奇形試験、発がん性試験、変異原試験) 試験結果の評価、NOAELとLOAEL	
		背景	1	定義・分類	消費者と生産者にとって重要、保健機能食品を中心に関連する国内外の制度と関連法規	
	国内外の関連法規-保健機能食品と健康表示制度を含む	関連法規	6.6	健康増進法 食品衛生法 食品安全基本法 法令・法規その他 JAS法	薬事法(成分の食薬区分、医薬品的な効果効能、医薬品的な形状、医薬品的な用法用量) 健康増進法 食品衛生法(残留農薬基準、食品添加物、特殊な方法により採取する食品) 食品安全基本法【食品安全委員会、新開発食品等専門調査会) 景品表示法 JAS法	清水 俊雄
		国内の制度	7.2	保健機能食品 食品添加物 遺伝子組換え食品	保健機能食品 (特定保健機能食品、栄養機能食品) 食品添加物(安全性評価、法的分類) 遺伝子組換え食品(安全性評価、管理の制度、表示方法)	
		海外の制度	3.5	コーデックス 海外事情	コーデックス委員会 欧州連合(EU)(EU栄養・健康表示法、新規食品法) アメリカ合衆国(栄養表示・教育法(NLEA)、ダイエタリーサプリメント健康教育法(DSHEA)アジア(中国、韓国)	
		今後の展望	1.5	消費者対応その他	行政の変化 消費者の啓蒙と情報伝達、アドバイザー・スタッフの養成 国際的制度との整合性	
		はじめに	0.6	体のしくみ	栄養素の代謝やせり作用の化学的説明	
基礎の生化学	エネルギーの産生	5.4	エネルギー	糖質の代謝 グルコースの体内でのゆくえ 脂質の代謝 トリアシグルグリセロールの分解と合成 脂質からの生活活性物質の合成	鈴木 和春	
	タンパク質の代謝	2	体のしくみ	アミノ酸の分解		
	ビタミン	4	ビタミン・ミネラル	脂溶性ビタミン 水溶性ビタミン 抗酸化ビタミン		
	ミネラル	3	ビタミン・ミネラル	ミネラルの主要な働き カルシウム 鉄 ナトリウム		
	ホルモン	3	体のしくみ	主要なホルモンとその生理作用 ホルモンの作用機序		
血液の働き	1	体のしくみ	血液の組成と作用			

表4 No. 2 日本臨床栄養協会サプリメントアドバイザー認定機構

テキスト	大目次	小目次	頁数	カテゴリー	キーワード	執筆・監修者
		免疫	2.5	免疫	アレルギーの発症 Tリンパ球とBリンパ球の働き 免疫グロブリン	古瀬 充宏
		核酸の化学とタンパク質合成	3	体のしくみ	核酸(核酸の構成成分、DNAの構造・ポリヌクレオチド) 遺伝情報の流れ	
		おわりに	0.2	その他		
		はじめに	0.8	食生活その他	生理学	
		消化の概要	1	体のしくみ	消化とは、消化器系の機能	
		消化のメカニズム	8	体のしくみ	口腔内消化 胃内消化(胃の構造と役割、胃液の分泌) 管腔内消化(唾液の役割、胆汁の役割、腸液の役割) 栄養素の管腔内消化(タンパク質の消化、タンパク質の消化、脂質の消化)	
		膜消化と吸収	4.8	体のしくみ	小腸の構造と働き 糖類の吸収機構 タンパク質の吸収機構 脂質の吸収機構 水と金属イオンの吸収機構 カルシウムの吸収機構 鉄の吸収機構 ビタミンの吸収機構	
		大腸と腸内細菌叢	0.7	食物繊維	腸内細菌の種類 食物繊維の種類	
		体調の維持	4.8	体のしくみ	ホメオスタシス 自律神経 ストレス 食欲調節	
		保健指導における心理学的手法の導入	1	カウンセリング	特定健診・特定保健指導において期待される技術・能力	
		行動変容を支える心理学の理論	5	カウンセリング	理論横行モデル(各準備状態にあった対応、無関心期、関心期にある対象者に対する介入のポイント) 健康信念モデル 合理的行為の理論、行動計画理論	
		カウンセリングの具体的な方法	7	カウンセリング	カウンセリングの立場 健康カウンセリングの方法(マイクロカウンセリング、認知行動療法、自律訓練法)	
		行動変容におけるセルフコントロールの方法	1	カウンセリング	目標行動の設定 自己監視法 刺激統制法 自己契約 自己教示 自己強化と自己罰	
		心理的狀態に対するアセスメント	2.5	カウンセリング	アセスメントの意義と目的 心理テストの分類 保健指導における心理アセスメント	
		認知行動療法による肥満へのアプローチ	2	カウンセリング	減量への動機づけ 運動療法との併用 減量における認知行動療法の実際	
		カウンセリング技法による糖尿病へのアプローチ	8.1	カウンセリング	認知行動療法の導入とその限界(患者の訴えに対する一般的な対応、相談内容を聴いてもすぐに助言しないことが必要、語の内容の裏にある感情を明確化、感情の明確化1、2、さらなる感情の明確化、この段階での対応や助言の問題点、本来の感情の理解、自己関連連想法による本来の感情の理解、矛盾した感情の理解、矛盾した感情に対する対応、対決によるクライエントのイメージ、イメージ菌以後にある感情の明確化、逆説的説明1、2、3、自己決定、カウンセリングの立場からの指導や助言)	
		認知行動療法の応用による心疾患へのアプローチ	7.3	カウンセリング	心臓リハビリテーション(心リハ)における認知行動療法的アプローチの有効性 心リハにおける認知行動療法の応用事例(対象者の背景、プログラム内容と実践方法、プログラムの結果) 心リハの認知行動療法的介入における留意点	
			25			
			20			
		練習問題				石原 俊一
		正解と解説				

表4 No.3 食品保健指導士(新) 財団法人 日本健康・栄養食品協会

4日間の講座受講後論文試験 受講料92,000円 会員76,000円

テキスト	大目次	小目次	頁数	カテゴリー	キーワード	執筆・監修者
序章	食品保健の科学	栄養学の基礎	13.5	エネルギー 3大栄養素 ビタミン・ミネラル 食物繊維	栄養とエネルギー 栄養素の機能(たんぱく質、脂質、糖質、ビタミン、ミネラル、食物繊維)	細谷憲政
		栄養状態の評価・判定	12.3	栄養管理・アセスメント	栄養アセスメントとは(SGA評価法、客観的評価) 栄養ケア(目標設定、計画作成、栄養適正量の決定)	中村丁次
		栄養補給・教育	9.7	栄養管理・アセスメント カウンセリング	栄養補給とは 経口栄養補給 経腸栄養補給 静脈栄養補給 栄養教育(意義と目的、方法、アセスメント、目標の計画、実施、コミュニケーション、評価、記録)	足立香代子
		臨床栄養	24.5	生活習慣病 相互作用 薬理学	疾患と栄養(メタボリックシンドローム、肥満 医療と栄養障害 医療と栄養食事療法 病態別栄養 病人食) 食品と医薬品の相互作用(臨床薬理学、薬理学、食品の医薬品体内動態に対する影響、医薬品による食品の有害性の発現、相互作用に関する情報)	川島由紀子
		栄養疫学	5.2	科学的根拠	EBM EBN 栄養疫学と実践	中村丁次 篠塚和正 池上幸江
		機能性食品の研究	1.7	食生活の変遷	日本の食 日本人の食と健康 新しい食品の動き	伊達ちぐさ
		食品の機能	1.5	健康の概念	一次、二次、三次機能	上野川修一
		機能性食品成分各論	35.2	免疫 保健機能食品 ハーブ その他の健康食品 生活習慣病 アレルギ ー 疾患その他	免疫系疾患のリスクを低減する食品(免疫とは、低下の要因、アレルギーとは) 神経系疾患のリスクを低減する食品(アルツハイマー、うつ病、片頭痛、不眠症、不安症、統合失調症) 内分泌系疾患のリスクを低減する食品(糖尿病、更年期障害、良性前立腺肥大症、勃起不全) 循環器疾患の予防をする食品(高血圧、高コレステロール、高トリグリセリド血症) 消化器系疾患の予防をする食品(腸内環境の改善、がん、炎症疾患) がんのリスクを低減する食品	上野川修一 板倉弘重 岸本良美 近藤和雄 西野輔翼
		食品機能の表示に関する制度(総論)	7.7	分類・定義 品質に関わる表示 栄養に関わる表示 表示その他	食品の表示-品質に関わる表示と栄養/健康に関わる表示 食品機能の表示-発展の経緯 サプリメント等健康食品の位置づけ	浜野弘昭
		食生活の科学		栄養・食生活(総論)	2	食生活の変遷
		食事摂取基準	5.5	食事摂取基準	基本的事項 エネルギー 栄養素 まとめ	佐々木敏
		食事ガイドライン(食生活指針)	8.5	食育	食事摂取基準 食生活指針 食事バランスガイド 食事ガイドラインの日米比較 食事バランスガイド おわりに	田中平三
		ライフステージ別の栄養	14.4	ライフステージ別栄養学	乳幼児の栄養 妊産婦 高齢者の栄養	児玉浩子 杉山隆 森田明美
		食育	3.7	食育	食育基本法と食育推進基本計画 食育の概念 地域の特性を生かした食育推進計画策定に向けて	武見ゆかり

